

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。そして、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の概要

- (1) 調査の対象学年 小学校第6学年（4月18日に調査を実施した学校・児童数 門真市:14校 868人）
中学校第3学年（4月18日に調査を実施した学校・生徒数 門真市:6校 839人）
- (2) 調査内容 ①教科に関する調査 小学校【国語・算数】
中学校【国語・数学・英語（今年度、新たに追加）】※英語については、「聞くこと、読むこと、書くこと」の結果のみ
②質問紙調査 ○児童生徒に対する調査 ○学校に対する調査

今年度調査の特徴

- ※新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度よりこれまでの「A問題（知識・技能等）」と「B問題（活用等）」の区分を見直し、「知識・活用等」を一体的に問う形式で調査が実施されました。
- ※中学校において、「英語」が初めて調査実施されました。
- ※理科は3年に一度程度の実施のため、実施しておりません。

校種・教科・区分別平均正答率（%）※①

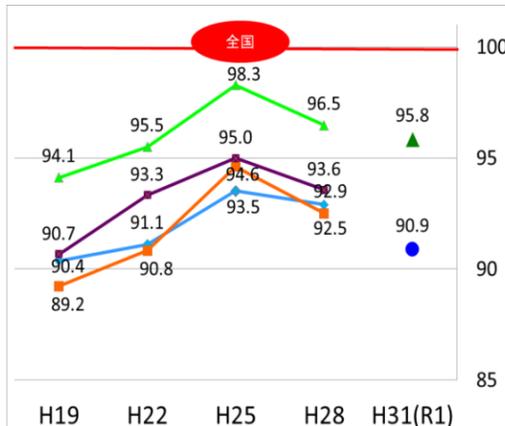
校種	令和元年度			校種	令和元年度		
	門真市	大阪府	全国		門真市	大阪府	全国
小学校				中学校			
国語	53	60	63.8	国語	65	70	72.8
算数	62	66	66.6	数学	53	58	59.8
				英語	49	56	56.0

校種・教科・区分別無解答率（%）

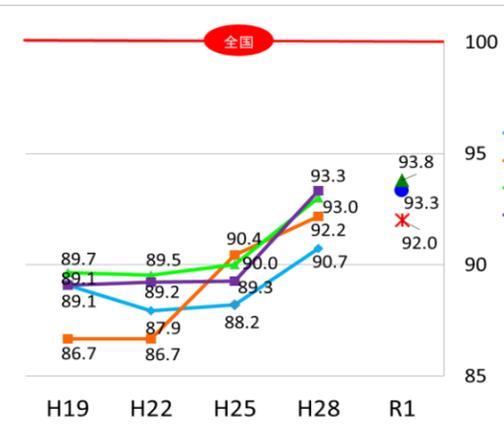
校種	令和元年度			校種	令和元年度		
	門真市	大阪府	全国		門真市	大阪府	全国
小学校				中学校			
国語	9.2	7.0	6.2	国語	3.7	3.3	2.6
算数	4.0	2.8	2.7	数学	9.0	8.7	7.3
				英語	7.4	6.6	6.0

標準化得点を活用した対全国比経年比較※②

小学校



中学校

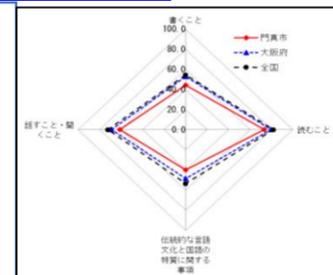


各教科の状況について

小学校

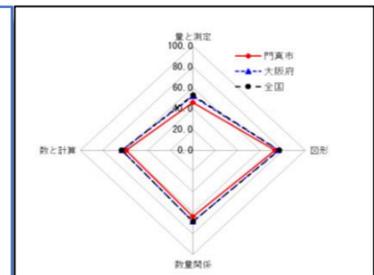
○小学校国語

「読むこと」の領域では、対国比90%前後の正答率であった。その中でも、「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと」については、正答率が高かった。一方、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の「漢字を文の中で正しく使う」や「書くこと」の領域の「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」には課題が見られた。



○小学校算数

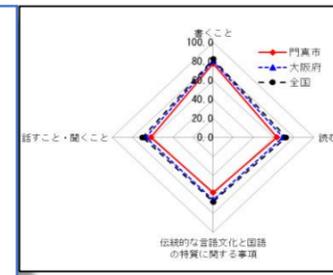
領域では、「数と計算」「数量関係」については、対国比90%以上の正答率であった。特に、「示された除法の式の意味を理解している」ことについては、対国を上回る結果が見られた。また、「図形」の領域においても、「台形について理解している」については、対国を上回る結果が見られた。一方、「数と計算」領域の「示された計算の仕方を解釈し・・・記述できる。」については課題がみられた。



中学校

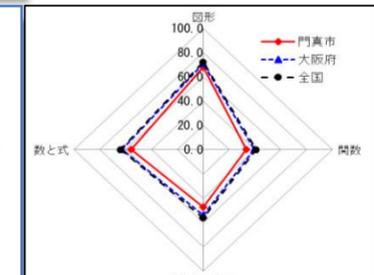
○中学校国語

「書くこと」の領域では、対国比90%を超える正答率であった。特に、「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する。」においては、対国比97%を超える正答率であった。一方、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域の「封筒の書き方を理解して書く」については、課題が見られた。



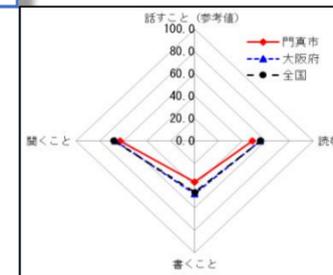
○中学校数学

「図形」の領域では、対国比90%前後の正答率であった。特に、「平行移動の意味を理解している」「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している」「反例の意味を理解している」については、対国比を90%を超える正答率であった。一方、「関数」の領域において課題が見られた。特に、「反比例の表からXとYの関係を表すことができる」「事象を数学的に解釈し・・・ことができる」については課題が見られた。



○中学校英語

「聞くこと」の領域では、対国比正答率90%をほとんど上回った。特に、「語と語の連結・・・聞き取る」「まとまりのある・・・理解することができる」については、対国割合を97%を上回る正答率であった。一方、「読むこと」の領域の「資料を読んで自分の考えを書く」や、「書くこと」の領域の「まとまりのある文章を書く」については大きな課題が見られた。



今後に向けて

A・B区分がなくなって初めての全国学力・学習状況調査のため、昨年度までとは単純には比較はできないものの、小学校では国語・算数ともに正答率は、昨年度より下回りました。中学校においては、国語・数学ともに昨年度より上回りました。さらに、授業改善につなげるため、各教科の領域別の正答率に目を向けると、小・中学校ともに、「書く」というところに課題がみられました。また、記述式の正答率も、選択式・短答式に比べると課題がみられました。

2学期以降は、各学校において、授業中の「めあて」に沿った中で、教員からの「条件付けをした書く」という作業を取り入れるなど、授業改善に取り組んでいきます。今後も引き続き、各学年において、領域別以外にも個々の課題をつかむため、本調査結果を分析し、授業改善に活かしてまいります。また、本市の学力向上施策を通して、取組の一層の充実を推進してまいりますので、今後とも引き続き御支援御協力の程よろしくお願いたします。

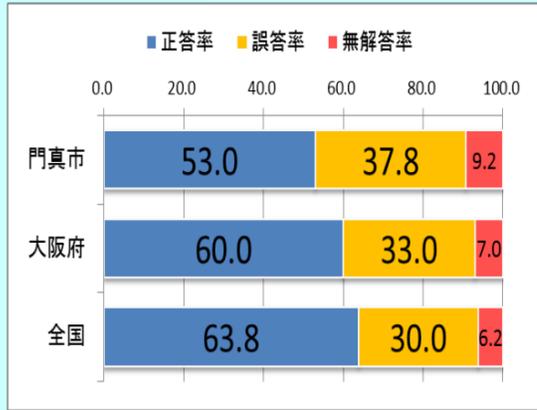


※ 今回お知らせする調査結果につきましては、学力や学習の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などの全てを表すものではありません。
 ※① 平成31年度（令和元年度）の正答率の値は、文科省から整数の値で提供されたため、小数点以下は表記しておりません。
 ※② 標準化得点は、全国平均との関係について年度間の相対的な比較ができるよう、計算されたものです。

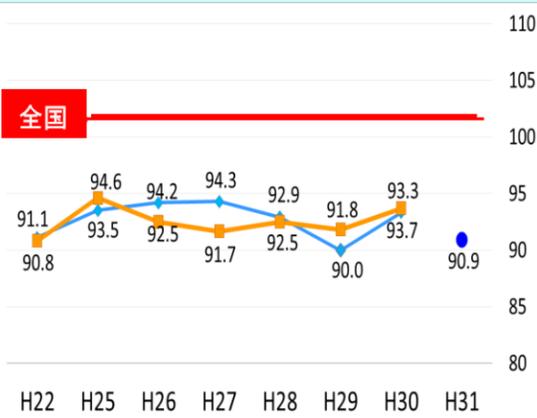
小学校

国語

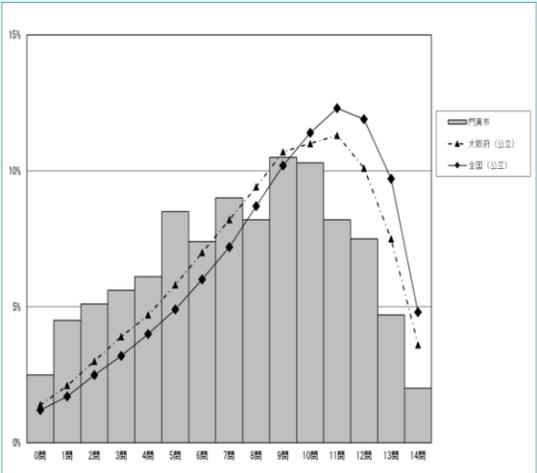
正答率比



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較

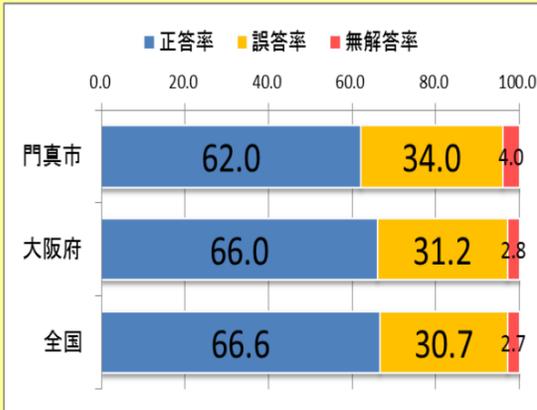


正答数分布

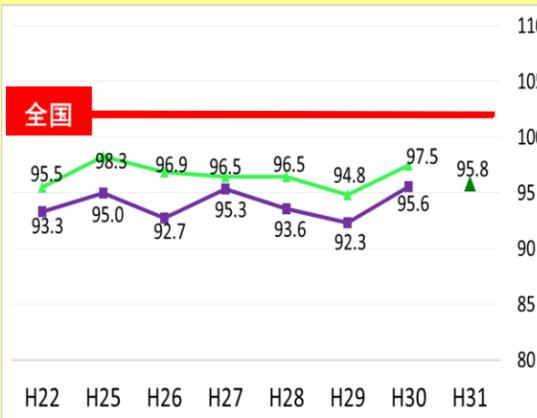


算数

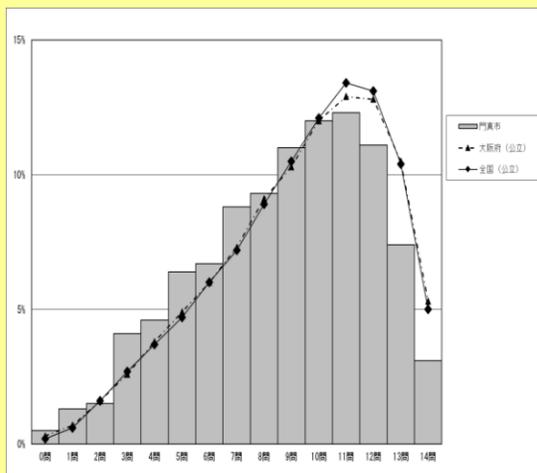
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布



中学校

国語

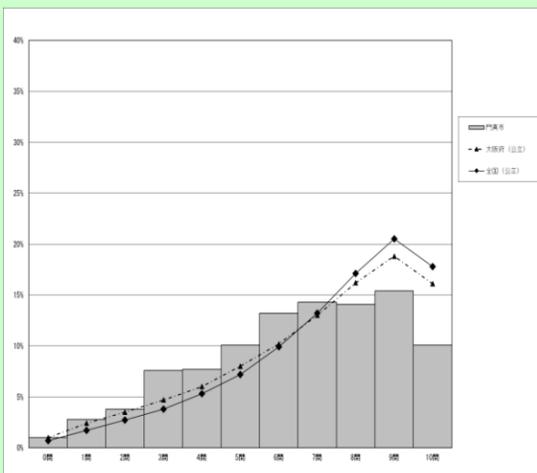
正答率比



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較

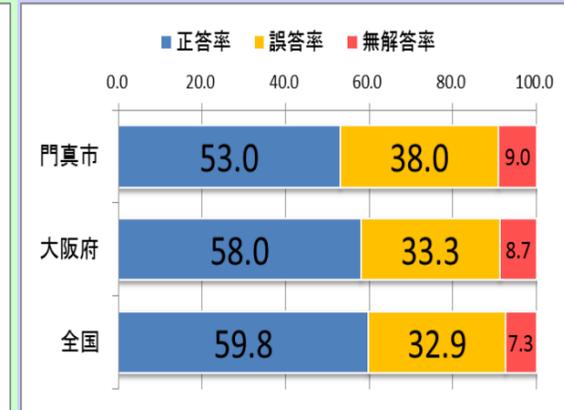


正答数分布

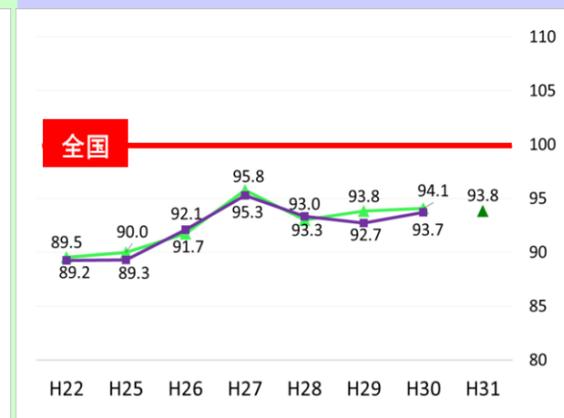


数学

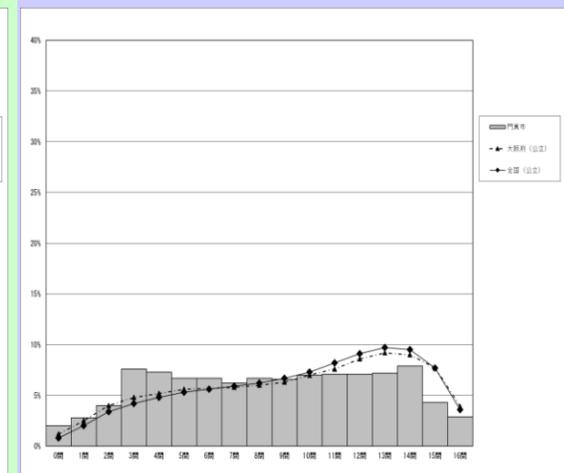
正答率比較



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布

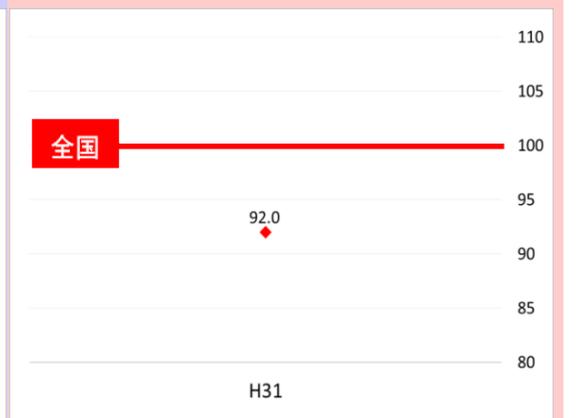


英語

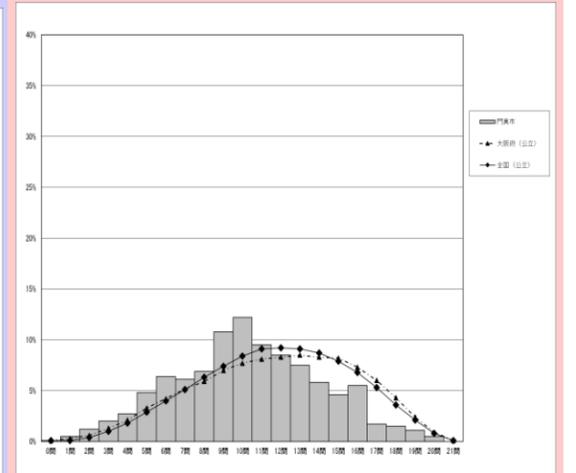
正答率比



文科省による標準化得点を活用した
対全国比経年比較



正答数分布



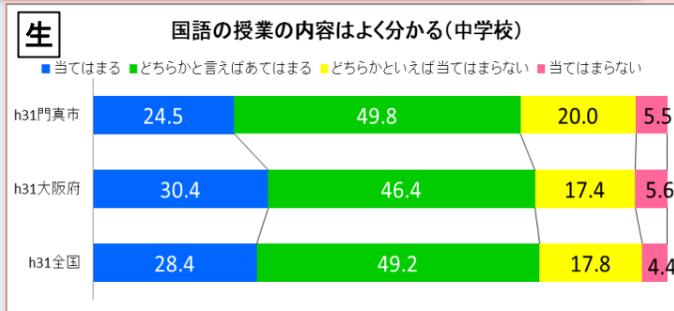
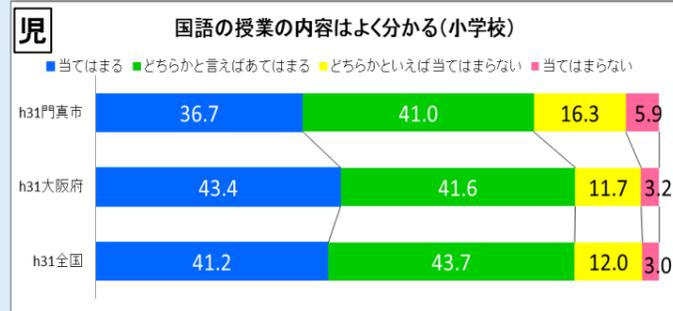
小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

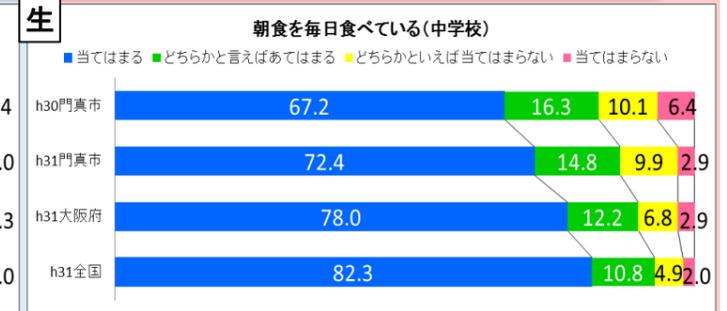
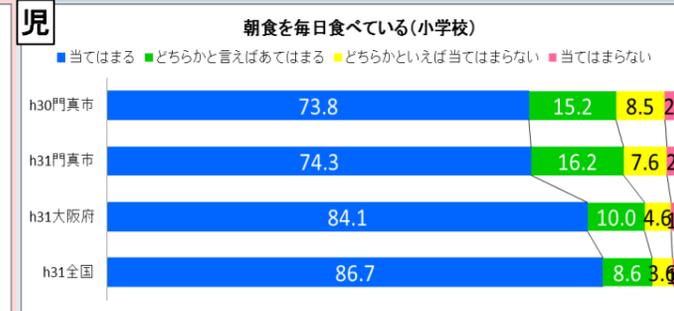
小学校（第6学年）

中学校（第3学年）

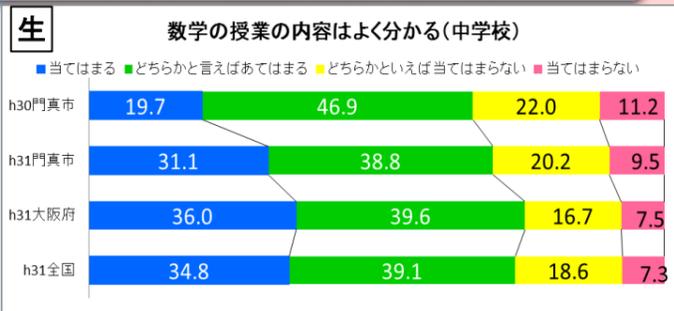
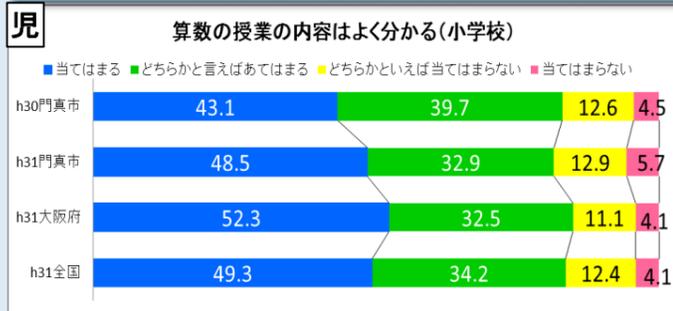
国語の学習内容理解は、児童生徒ともに対府・対国割合から課題が見られた



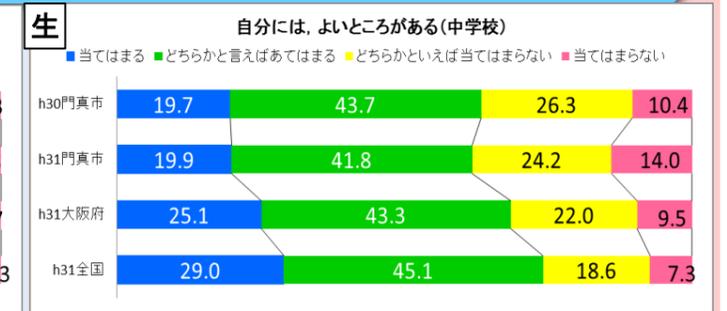
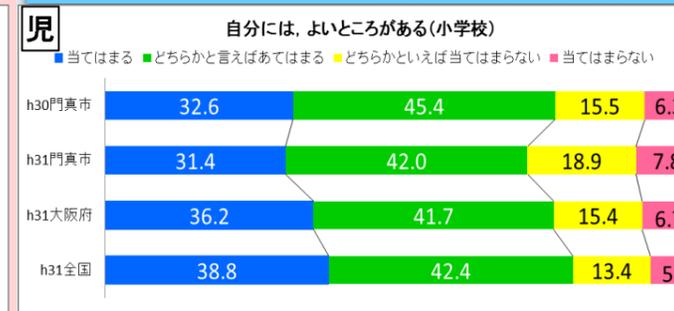
朝食を毎日食べている児童生徒の割合はともに増加（※）



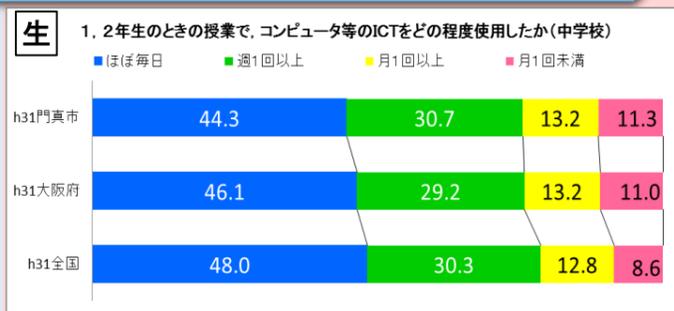
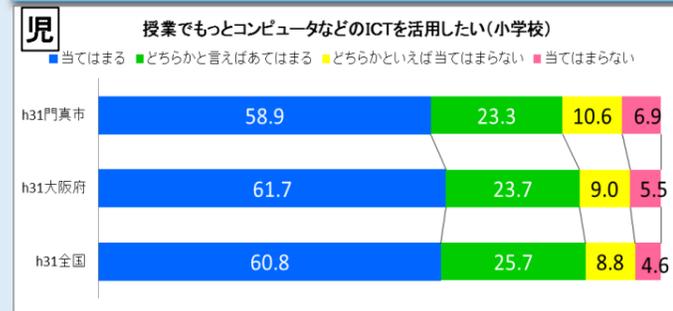
算数・数学の学習内容理解は、児童は課題が見られたものの、生徒は改善が見られた



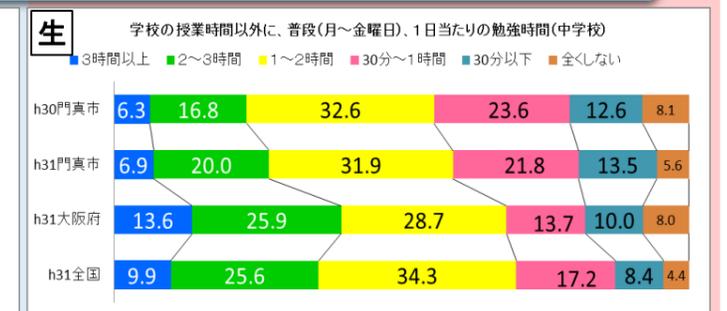
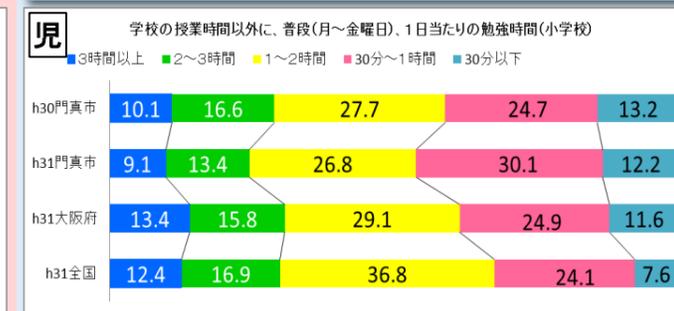
自分には、よいところがあると思う児童生徒はともに減少



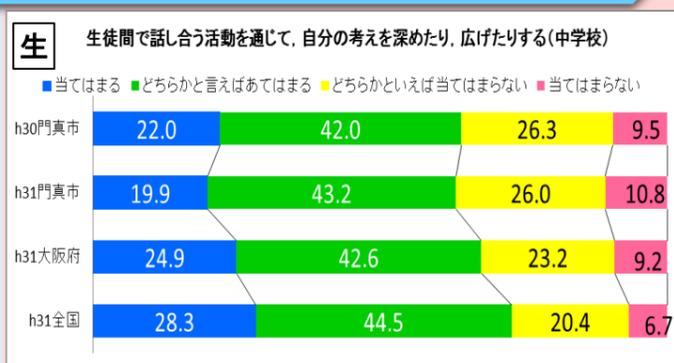
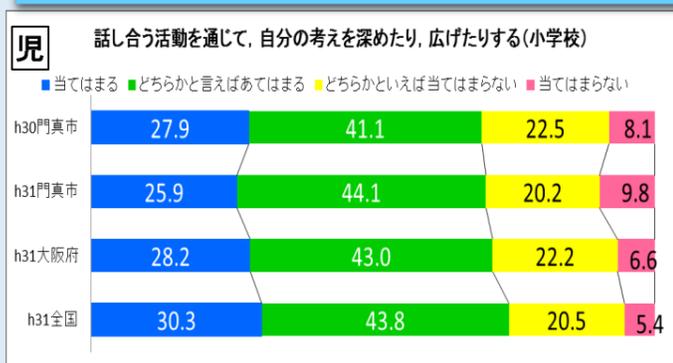
授業でICTを活用したい児童生徒の割合は概ね同程度である



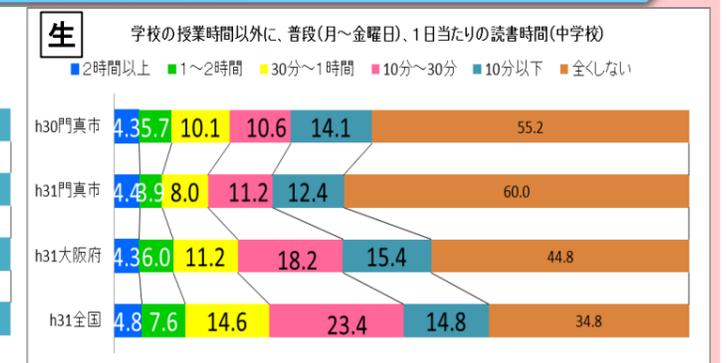
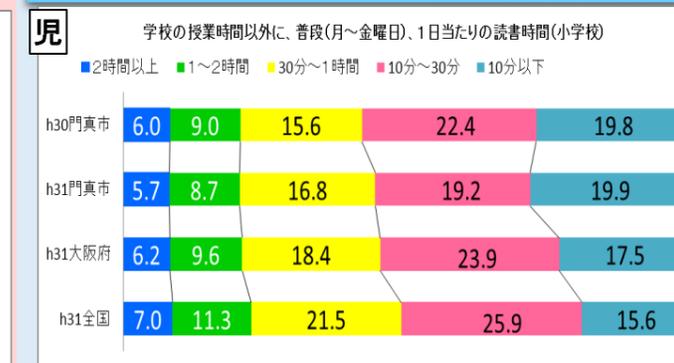
家庭学習の時間は、1時間以上の学習割合において児童は減少し、生徒は増加



話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている児童は増加、生徒は減少



読書をする時間は、児童生徒ともに増加



(※)門真市教育委員会と学校が連携し、全国学力・学習状況調査の結果の分析を基に、子どもの力をより良く育成できる授業改善・学校教育環境の改善をさらに行ってまいります。また、「早寝・早起き・朝ごはん」など、安定した生活習慣と子どもの学力には相関関係があると、言われています。全国学力・学習状況調査の結果が返却される機会に、お家でもお子さまと生活習慣について、本資料を活用し、お話する機会をつくっていただければ幸いです。

